

令和5年度
西会津町教育委員会事務事業
点検・評価報告書
(令和4年度事業分)

西会津町教育委員会

1. 令和4年度 教育委員会の活動状況

(1) 組織体制

① 教育委員

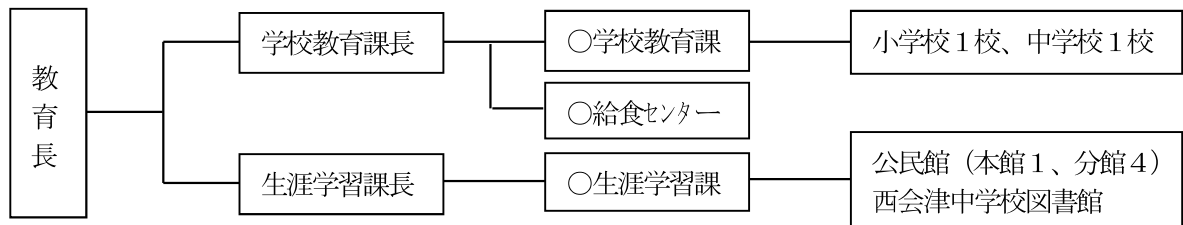
(令和5年3月31日現在)

役職名	氏名	就任年月日	任期
教育長職務代理者	高橋 誠	令和4年10月15日	令和4年10月15日～ 令和8年10月14日
委員	平野 マチ子	令和2年10月5日	令和2年10月5日～ 令和6年10月4日
委員	齋藤 彰子	令和元年10月5日	令和元年10月5日～ 令和5年10月4日
委員	矢部 佳宏	令和2年10月5日	令和2年10月5日～ 令和6年10月4日

② 教育長

役職名	氏名	就任年月日	任期
教育長	江添 信城	令和3年12月26日	令和3年12月26日～ 令和5年3月31日

③ 事務局組織



(2) 会議の開催状況 (定例会・臨時会)

回数	月日	議案	協議・承認	報告	回数	月日	議案	協議・承認	報告
1	4/21	0	0	10	9	12/22	0	0	10
2	5/26	2	0	11	10	1/26	1	0	9
3	6/23	1	0	9	11	2/9	1	0	0
4	7/25	4	0	11	12	2/22	3	0	9
5	8/26	3	0	8	13	3/2	0	0	1
6	9/29	0	0	7	14	3/29	4	0	9
7	10/27	0	0	14	合計		20	0	119
8	11/25	1	0	11					

(3) 議案等

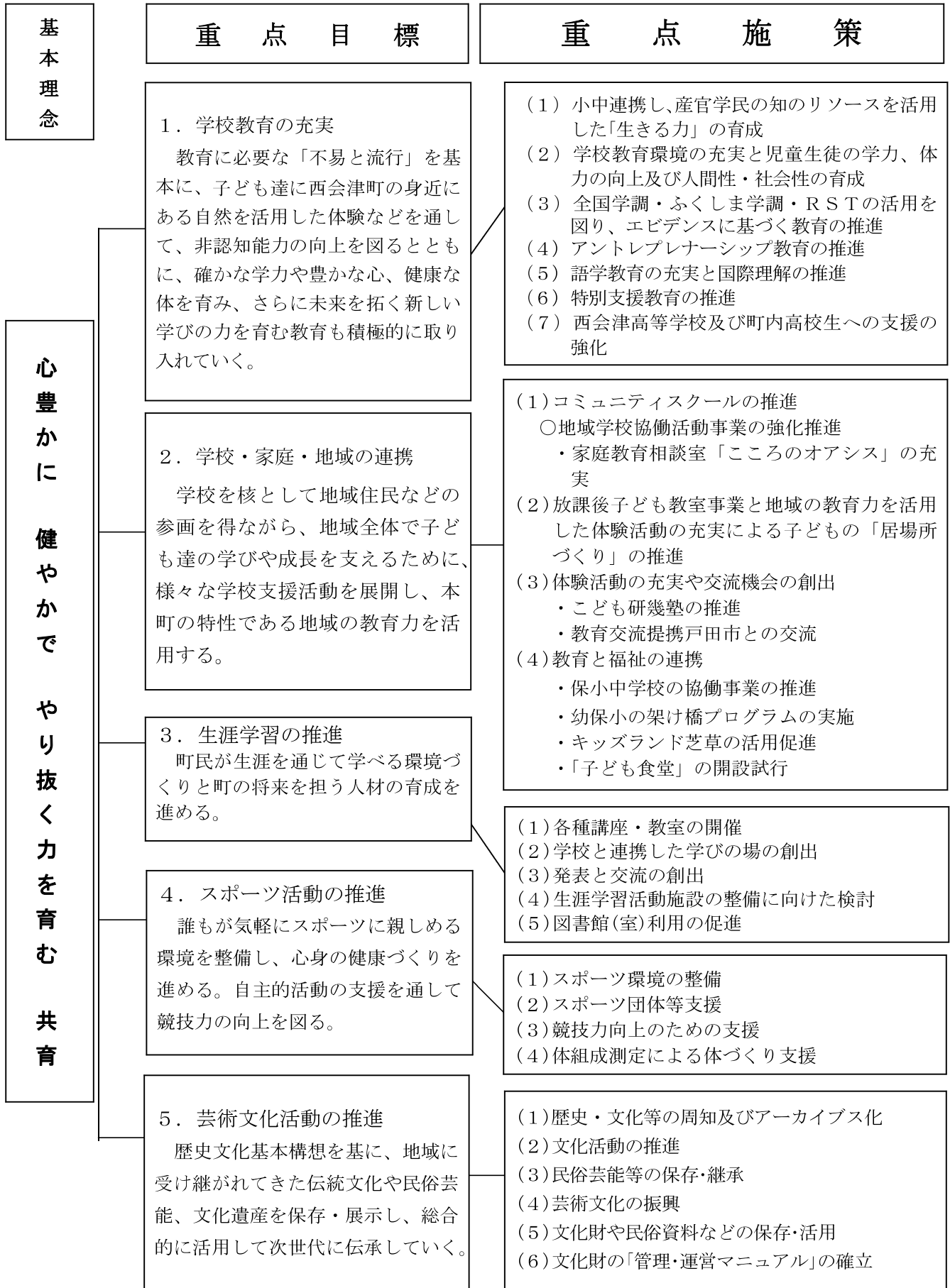
月 日	案 件 名	備 考
4月21日	○ なし	
5月26日	○ 令和4年度西会津町一般会計補正予算（第1次）のうち教育費に係る部分の意見について	
	○ 西会津町生涯学習審議会委員の任命について	
6月23日	○ 成人式の名称変更について	
7月25日	○ 令和5年度使用小学校教科用図書の採択について	
	○ 令和5年度使用中学校教科用図書の採択について	
	○ 令和5年度使用学校教育法第9条に規定する教科用図書の採択について	
	○ 令和4年度西会津町一般会計補正予算（第2次）のうち教育費に係る部分の意見について	
8月26日	○ 令和4年度西会津町一般会計補正予算（第3次）のうち教育費に係る部分の意見について	
	○ 令和4年度西会津町教育委員会事務事業（令和3年度分）の点検・評価報告書について	
	○ 西会津町体育施設条例の一部を改正する条例	
9月29日	○ なし	
10月27日	○ なし	
11月25日	○ 令和4年度西会津町一般会計補正予算（第6次）のうち教育費に係る部分の意見について	
12月22日	○ なし	
1月20日	○ 令和4年度西会津町教育顕彰表彰の決定について	
2月 9日	○ 西会津町教育委員会教育長の辞職について	(臨時会)
2月22日	○ 西会津町アントレプレナーシップ教育活動事業費補助金交付要綱について	
	○ 令和4年度西会津町一般会計補正予算（第8次）のうち教育費に係る部分の意見について	
	○ 令和5年度西会津町一般会計予算のうち教育費に係る部分の意見について	
3月 4日	○ なし	(臨時会)
3月29日	○ 西会津町教育委員会が取り扱う個人情報保護に関する規則を廃止する規則について	
	○ 西会津町教育委員会事務局職員の任免について	
	○ 西会津町公民館規則の一部を改正する規則について	
	○ 西会津町公民館活動推進員設置要綱について	

(4) 教育長等の活動状況

月	行 事 等	備 考
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 辞令交付式（生涯学習指導員、社会体育指導員、町講師、支援員等、学校教育アドバイザー及び幼児教育・保育アドバイザー） ○ 町職員辞令交付式 ○ 町教職員着任式 ○ 西会津小・中学校入学式 ○ 西会津高等学校入学式 ○ 県町村教育長協議会総会（書面開催） ○ 県市町村教育委員会教育長会議（オンライン） ○ 第1回域内市町村教育委員会教育長会議 ○ 自治区長会議 ○ 全会津市町村教育長連絡協議会定例会 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県市町村教育委員会連絡協議会耶麻支会理事会 ○ 西会津小・中学校第1回学校運営協議会 ○西会津小運動会 ○ 第1回地域学校協働本部推進委員会 ○ 県市町村教育委員会連絡協議会耶麻支会総会 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 町議会定例会 ○ 西会津こども研幾塾開塾式 ○ 第1回域内市町村教育委員会訪問 ○ 前期所長（管理）訪問 ○ プログラミング教室 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県市町村教育委員会連絡協議会会津ブロック研修会 ○ 第1回会津採択地区協議会 ○ 町総合教育会議 ○ 県町村教育長協議会第1回理事会 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事務事業外部評価委員会 ○ 英語教育・異国文化体験事業 ○ 戸田市教育委員会打合せ・戸田東小訪問 ○ 議会全員協議会 ○ 西会津こども研幾塾 ○ 町教育委員会主催教職員研修会 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 町議会定例会 ○ 西会津こども研幾塾 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 西会津国際芸術村公募展表彰式 ○ 会津耶麻地方植樹祭 ○ 就学指導審議会 ○ 西会津中光桐祭 ○ 県市町村教育委員会連絡協議会耶麻支会研修会 ○ 第2回域内市町村教育委員会教育長会議 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和4年度福島県「AI時代を生き抜く読解力向上事業」公開授業研究会 ○ 第37回西会津の文化と産業祭（西会津ふるさとまつり） ○ 第2回域内市町村教育委員会訪問 ○ 第34回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会選手激励会 ○ 西会津こども研幾塾閉塾式 ○ 令和4年度福島県町村教育長協議会研修大会浜大会 ○ 令和4年度自治功労者表彰式 ○ 教育委員会視察研修 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第31回子どもの主張大会 ○ 第1回組織打合せ会 ○ 町議会定例会 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2回組織打合せ ○ 給食センター運営委員会 ○ 大宜味村交流事業 ○ 戸田市長・教育長表敬訪問 ○ 文化財防火デー合同消防訓練 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 武蔵野大学アントレプレナーシップ研究所・学部との包括連携協力に関する協定書締結式 ○ 町議会臨時会 ○ 県町村教育長協議会第2回理事会 ○ 第33回西会津雪国まつり ○ 第3回組織打合せ ○ 町教育顕彰表彰式 ○ 第5回町長杯西会津かるた大会 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3回域内市町村教育委員会教育長会議 ○ 町議会定例会 ○ 西会津小・中学校卒業式 ○ 第4回域内市町村教育委員会教育長会議 ○ 町教職員離任式 	

令和4年度 西会津町教育委員会 重点目標及び重点施策

I. 教育目標・重点目標及び重点施策の体系



Ⅱ. 重点目標及び重点施策

1 学校教育の充実

SDGs(エスディーズ)の視点に立ち、教育活動と連携させていく。

(1) 小中学校の連携教育と産官学民との連携により、社会でたくましく生きる子どもを育成

- 義務教育9年間を通じた教育活動により、児童生徒に社会で自立し、生きる力を身につけさせる。
- 小学校と中学校が、お互いの校種の違いを理解し、教育活動の独立性と連続性を認識しながら、かつ、情報を共有し、児童生徒の成長を支援する。
- 小学校と中学校の児童生徒、教員及び保護者の交流を進め、地域ぐるみで児童生徒を育成する。
- 産官学民の知のリソースを活用し、西会津の不易の学び(民)と新しい(産官学)学びとしての流行とを融合した教育を推進する。(不易と流行の融合)

(2) 学校教育環境の充実と望ましい学級経営を基盤にした児童生徒の学力・体力の向上及び人間性・社会性の育成

①確かな学力を育む(知の育成)

- 児童生徒に基礎的・基本的な知識とそれを活用し、問題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を習得させ「生きる力」を育む。
- 国が進める GIGA スクール構想にいち早く対応し、児童生徒全員に1人1台端末の配付や、全教室等への電子黒板の設置、更には、学校内の高速通信ネットワーク(高速無線LAN)整備も完了したことから、ICT機器を授業支援のツールとして最大限に活用し、児童生徒が主体的に課題を解決できる力を身につけさせるための「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を推進する。
- ICT教育支援員や地域おこし協力隊員を学校に配置し、児童生徒や教職員等を支援しながら、児童生徒の「学校での学び」と「家庭学習」による「新しい学び・ハイブリット型学習」を推進する。
- 産官学民の知のリソースを活用したプログラミング教育を推進し、新しい学びの力を育成する。(会津大学や町内企業との連携を推進)
- 全国学力学習状況調査やふくしま学力調査、リーディングスキルテスト(RST)を推進するとともに、それら調査の結果を的確に分析・把握することで得られるエビデンスに基づく指導の個別化を図る。
- 教員の資質・能力の向上を図るため、教員の授業研究等の校内研修の活性化を図るとともに、町教育委員会独自の研修を実施する。
- 未だ収束の見えないコロナ禍の下、臨時休業等で学校に登校できない児童生徒に対しては、家庭環境や情報セキュリティに十分留意しながら、自宅におけるオンライン学習等を行うなど、可能な限り教育活動を継続し、児童生徒の「学びの保障」を支援する。

②心豊かな人間性・社会性を育む(徳の育成)

- 豊かな情操や規範意識、公共の精神などを育む道徳教育を推進する。
- 豊かな感性や情緒を育み、豊かな言語力を育成するため、朝読書やビブリオバトルの実施、図書館の読書通帳の活用など、積極的に読書活動を奨励する。

- 児童生徒に非認知スキルを育むため、奉仕の精神・社会性や規範意識向上を図るための農業・職場体験並びにボランティア活動などの体験活動を充実させる。
- こども園から小学校へ円滑に繋ぐための「幼保小の架け橋プログラム」の推進により、一人一人の多様性に配慮し、全ての子どもに学びや生活の基盤を育む。
- 不登校等の児童生徒やその保護者が、適切な教育相談等を受けることができるよう、スクールカウンセラーや教育相談員の活用、更に「こころのオアシス」を中心に関係機関との相談体制の充実を図り、「教育」と「福祉」の連携に努める。

③健やかな体を育む（体の育成）

- 体力運動能力調査等の結果から児童生徒の体力と運動習慣等の関係を分析・検証して、運動能力の向上を図る体育活動の取り組みを推進する。
- 児童生徒に食の大切さを理解させ、正しい食習慣を身に付けさせるため、学校・家庭・地域の連携による食育を推進するとともに、学校栄養職員等による食に関する指導を支援する。
- 学校給食では、地場産品の農産物の使用を推進し、楽しく美味しい栄養バランス（塩分調整も含む）のとれた給食を提供する。

④安全・安心な教育環境の実現

- 学校施設の計画的な修繕や改修を進める。
- 児童生徒に危機回避能力を育てる安全指導の充実、地域と連携協力した学校内外の安全の確保を図る。
- 災害等に備え、危機管理体制の不断の見直しと、児童生徒の安全確保訓練をこども園、小・中学校が連携し計画的に実施する。
- 日々のスクールバスについては、安全を重視した運行により、絶対無事故の登下校に努める。
- 給食センターの計画的な施設修繕・改修により、安全・安心な給食を提供する。

⑤学校運営の充実

- 学校運営協議会（コミュニティースクール）を機能させ、学校運営の状況や教育活動の内容について評価を行い、学校経営の見直し、改善を図る。
- 教職員目標管理制度を活かし、教職員の学校経営参画意識の高揚と資質の向上を図る。

（3）アントレプレナーシップ教育の推進

- 生徒が社会の一員として生きていく上で必要な「自ら考え行動し、問題を解決していける開拓者精神と自立心」を育てるアントレプレナーシップ教育を特色ある活動として推進する。

（4）語学教育の充実と国際理解の推進

- 外国語指導助手による語学教育と国際理解教育を認定こども園、小学校、中学校で実施する。
- 小学校5年生及び6年生の英語学習については、外国語指導助手等と連携し、円滑な授業の実施と中学校を見越した授業の強化を図る。

- 英語力の向上のための英語教育・異国文化体験事業を戸田市中学生と合同で実施し、交流を深める。
また、小中高校生の英語検定への積極的な取り組みを支援するための助成事業を行う。
- 外国語指導助手を講師とし、町民を対象とした英会話教室を充実させ、語学教育と国際理解を深める環境づくりを進める。

(5) 特別支援教育の推進

- 障がいのある児童生徒一人一人の個に応じた指導の充実に努める。
- 認定こども園から小学校に入学する際、発達に障がいが見られる児童生徒の早期発見と早期支援に対応するための連絡会を実施する。
- 特別支援学校との連携により、障がいのある児童生徒が専門的な指導助言を受けられる体制の充実に努める。

(6) 西会津高等学校及び町内高校生への支援の強化

- 西会津高校の特色を活かし、生徒の多様な将来の夢が実現できる学校となるため、県や学校、同窓会、PTAと連携しながら、生徒が望む魅力ある学校づくりを目指す西会津高校のコミュニティスクールを支援する。
- 英語検定料補助金交付事業の補助対象者及び英語教育・異国文化体験事業の対象者を町内に住所を有する高校生まで拡大し、町内高校生への支援を強化する。

数値による目標

目標名		現状値 (平成29年)	目標値 (令和4年)	目標設定の説明
自分には良いところがある と感じている割合 (自尊感情・自己肯定感)	小学校	54.5 %	75 %	子どもの自尊心や自律心などを育てる (全国学力・学習状況調査による)
	中学校	67.5 %	85 %	
家で、自分で計画を立てて 勉強している割合	小学校	54.6 %	70 %	
	中学校	67.5 %	80 %	
新体力テストの総合評価	小学校	54.0 %	60 %	A～E判定*のうち、A+Bの割合
		83.2 %	90 %	A～E判定のうち、A+B+Cの割合
	中学校	68.8 %	70 %	A～E判定のうち、A+Bの割合
		86.6 %	90 %	A～E判定のうち、A+B+Cの割合

A～E判定：50 m走や握力、上体起こしなど新体力テストによる10項目の合計得点（100点）を総合評価する。
 (目安) A・よい B・やや良い C・ふつう D・やや劣る E・劣る

2 学校・家庭・地域の連携

(1) コミュニティスクールの推進

- 学校と地域の連携・協力体制を整備し、地域全体で学校を支え、教職員が児童生徒と向き合う時間的・精神的なゆとりを確保できるよう、地域学校協働本部事業の推進を図り、小・中学校のコミュニティスクールを支援・推進していく。
- 教育の原点である家庭の教育力を高めるため、学校が地域との連携を密にするとともに、家庭教育相談室「こころのオアシス」の取組みを強化することにより、家庭における正しい生活習慣等について保護者に認識していただき、児童生徒の正しい生活リズムを育む。

(2) 放課後子ども教室事業の推進と子どもの「居場所づくり」の推進

- 放課後や週末等に児童の安全で安心な活動拠点（居場所）を設け、学習活動や体験活動等の場と、適切な遊びや生活の場を提供し、保護者の子育てを支援する。
- 子育てコミュニティ施設「キッズランド芝草」を活用し、子育て世代のコミュニティづくりを支援するための拠点としての「子どもの居場所づくり」を推進する。
また、町内企業等との連携、協力をいただきながら、西会津版「子ども食堂」を試行開催し、定期化も目指す。

(3) 体験活動の充実や交流機会の創出

- 地域活動・ボランティア活動を通じたコミュニケーション能力の習得と地域活性化の推進・自然・農業体験の充実を図る。
- こども研幾塾事業により、地域学習を中心とした新しい学びの創出を図る。
- 児童生徒の交流は、オンラインによる交流等、コロナ禍でも実施可能な方策も含め交流機会の創出を図る。（大宜味村・いわき市豊間小・戸田市）
- 西会津国際芸術村との連携を図り、町の資産である自然・歴史・文化等を体験を通して学び、非認知スキルを培っていく。
- 地域おこし協力隊と連携し、児童生徒に本町の良さの発見と、新たな学びを創出していく。

(4) 教育と福祉の連携

- こども園と小中学校による保小中連携協議会の開催や、学校教育アドバイザーと幼児教育・保育アドバイザーを中心とした、こども園と小・中学校の協働事業を推進する。
- 義務教育開始前後の5歳児から小学1年生の2年間にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で、全ての子どもに学びや生活の基盤を育むことを目指す「幼保小の架け橋プログラム」を実施する。

3 生涯学習の推進

(1) 生涯学習活動の推進

○西会津町教育振興基本計画(令和元年度～令和4年度)に基づき、具体的事業により生涯学習活動を推進する。

(2) 学びの環境の充実

○誰もが生涯を通じてあらゆる機会にあらゆる場所において、学習することができる活動を支援し、生涯学習関連講座を開設してこれを援助する。町ケーブルテレビやホームページを活用して情報発信や情報提供に努める。

○「協働によるまちづくり」の理念のもと各種生涯学習団体の自主的活動を支援する。

○生涯学習発表の場を提供し、町民の交流や学習成果発表を推進する。

○人が集まるところに出向く「出前講座・教室」を推進し、町民が学ぼうとする意欲の支援と環境を整える。

○西会津中学校町民図書館が中心となり、多様化する図書のニーズに対応するため県立図書館等と連携するとともに、読書通帳等を活用し、子どもから大人まで読書に親しむことのできる環境づくりに努める。小学校低学年や乳幼児のうちから読書に親しむ習慣をつけることができるよう、お話しの会やブックスタートに取り組んでいく。

(3) 青少年健全育成活動の推進

○青少年健全育成町民会議を中心にして広報、啓発を行っていく。子どもの主張大会の開催や街頭活動などの地域活動を推進し、町民総意のもとに青少年の健全な育成に努める。

○歴史があり深い交流を続けているいわき市豊間小と長寿の村大宜味村との児童生徒の交流学習をオンラインによる交流等、コロナ禍でも実施可能な方策も含め進める。

数値による目標

目標名	現状値 (平成29年)	目標値 (令和4年)	目標設定の理由
出前講座開催数	20回	30回	人が集まるところに出向き、参加者を拡大する
生涯学習発表会等の参加団体数	22団体	22団体	生涯学習団体を支援し、発表会の参加団体を現状維持する
中学校町民図書館貸出冊数	17,648冊	18,500冊	読書活動を推進し、図書の貸出冊数を増やす

4 スポーツ活動の推進

(1) 一人スポーツの推進とニュースポーツの普及促進

- 社会体育指導員などの支援のもと、一人スポーツを推進し、町民が生涯にわたり様々な形でスポーツに関わりを持てるように努める。
- 町民の誰もがスポーツを身近に親しめるよう、ニュースポーツを普及させる。
- 各種スポーツ行事や大会、教室を開催し、町民へのスポーツ活動の普及促進に努めるとともに、自主活動の支援に努める。
- 小学校高学年及び中学校の児童生徒の個々の体組成を測定し、自分の身体への理解を深めながら怪我をしない身体づくりに資するよう会津大学短期学部と連携して取り組む。

(2) 競技力向上への強化推進

- 市町村対抗の軟式野球大会等は参加を積極的に支援し、町民意識の高揚に努める。
- ふくしま駅伝は、小学生のうちからキッズランニングクラブ等で選手を育成し、活躍の姿をとおして町民意識の高揚につながるよう努める。

(3) スポーツ団体の育成と自主的活動の助長

- スポーツ関係団体を支援し、自主的活動による組織強化を図るとともに、指導者や競技者を養成して技術の向上に努める。
- 町民の健康づくりのための「西会津コミュニティクラブ（スポーツクラブ）」や人を育てるための「西会津町スポーツ少年団」等を支援し、日常的なスポーツ活動を推進する。

数値による目標

目標名	現状値 (平成29年)	目標値 (令和4年)	目標設定の説明
西会津コミュニティクラブ(スポーツクラブ)会員数	41人	100人	西会津コミュニティクラブ(スポーツクラブ)の充実により会員数を増やす
施設利用登録スポーツ団体数	9団体	10団体	スポーツ団体を支援し、活動を活性化させる
さゆり公園スポーツ施設年間利用者数	46,570人	48,000人	施設の適切な維持管理と各種スポーツの普及により利用者を増やす

5 芸術文化活動の推進

(1) 芸術の薫り高い文化のまちづくり

- 町民の主体的な芸術文化の創造活動を支援し、成果を発表する機会を設ける。
- 学校教育と連携して音楽コンサートや芸術鑑賞などに取り組み、芸術文化に触れる機会を設ける。

(2) 文化遺産等の調査及び指定、保存伝承

- 文化財行政のマスタープランとなる「西会津町歴史文化基本構想」を基に推進を図る。
- 伝統的な民俗芸能等の調査及び記録に努め、民俗芸能等の保存と伝承活動を支援する。

(3) 埋蔵文化財の保存と活用、伝承

- 文化財の積極的な保護と保存、調査及び監視に努め、新たな指定や保存への支援を進める。
- 文化財などの整理分類をしながら適切な管理保存に努め、展示公開できるよう整備を進める。
- 令和3年度に完成した改訂版「西会津町の指定文化財」の有効利用を図る。
- 文化財及び古文書など歴史資料のデジタルアーカイブス化を計画的に進める。

数値による目標

目標名	現状値 (平成29年)	目標値 (令和4年)	目標設定の説明
復活した伝統行事・民俗芸能	0 件	1 件	地域の伝統行事・民俗芸能の価値を見直し復活させる
絵画、写真等の展覧会を行った施設数	10 施設	10 施設	芸術等に触れる機会を確保するため展覧会の開催施設数を維持する

令和4年度分点検・評価を行う主な事務・事業

番号	重点施策の名称	主要な事務・事業の名称	担当課
1	1－（5） 語学教育の充実と国際理解の推進	英語教育・異国文化体験事業 英語検定受験料補助金	学校教育課
2	2－（1） コミュニティスクールの推進	家庭教育支援事業 （地域学校協働活動事業）	
3	2－（4） 教育と福祉の連携	幼保小の架け橋プログラム事業	
4	3－（1） 各種講座・教室の開催	学習の場の提供と生涯学習推進事業	生涯学習課
5	3－（5） 図書館（室）利用の促進	図書館事業	
6	4－（2） スポーツ団体等支援 4－（3） 競技力向上のための支援	スポーツの普及・スポーツ団体育成と 競技力向上事業	

町 総 合 計 画	第1節 健やかな人々とともに育むまちづくり	2. 教育環境	教育委員会 重点目標及び重点施策	
		1. 学校教育の充実	重点目標	1. 学校教育の充実
			重点施策	1-(5) 語学教育の充実と国際理解の推進

事 業 の 概 要	事業名	英語教育・異国文化体験事業 英語検定受験料補助金	開始年度	R1 R2	実施方法	直接	補助金等	町単	
	対象	(英語教育・異国文化体験事業) 町内在住の中学生・高校生 (英語検定受験料補助金) 町内在住の小学生(5・6年生)・中学生・高校生							
	目標	(英語教育・異国文化体験事業) 生きた英語と英国文化の体験的な活動を通して、国際社会に対応するコミュニケーション能力と豊かな人間性を身に付けるとともに、戸田市中学生と合同で実施し、同世代間の交流を図る。 (英語検定受験料補助金) 児童生徒の英語力及び学習意欲の向上と受験機会の拡大による主体的な学びを支援する。							
	事業内容	(英語教育・異国文化体験事業) ブリティッシュ・ヒルズ(天栄村)を会場に、ゲームやものづくりなどの4つの英語カルチャーレッスンを通して、英会話や英国文化を学んだ。また、自由時間に参加できるミニ講座などにも積極的に参加し、戸田市の中学生と交流をしながら、英会話に親しんだ。(1泊2日) (英語検定受験料補助金) 英語検定(日本英語検定協会)を受験した際の検定料の全額を補助する。補助金の申請は年1回を上限とする。 【参考】準会場における検定料:3級(中学卒業程度)4,700円、2級(高校卒業程度)6,400円							
	予 算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項		
	最終予算額(5年度は当初)	千円	1,431	2,266	2,438	2,292	令和2・3年度は、コロナ禍により「英語教育・異国文化体験事業」を中止した。		
	決算額(A)	千円	161	279	1,417				
	決算額のうち一般財源	千円	161	279	663				

成果・評価	(英語教育・異国文化体験事業) 令和元年度に実施して以来、3年ぶり2回目の開催となった。また、今回から町内在住の中学生に加え高校生も対象にするとともに、教育交流提携を締結する戸田市の中学生も参加し、同世代間の多様な交流も図られた。 参加生徒へのアンケートの結果、「とても良い体験だった 94%、良い体験だった 6%」「来年も参加する 46%、おそらく参加する 33%」となり、肯定的な回答が多数であった。 参加者・・・西会津町22名(中学生19名、高校生3名)、戸田市16名、計38名 (英語検定受験料補助金) 令和2年度に中学生を対象に補助事業を開始した。令和3年度に小学校5・6年生、令和4年度には高校生を対象に加え、拡充を図っている。 【補助金交付件数の推移】 R2:56件(中学生56件)、R3:85件(小学生8件、中学生77件)、 R4:46件(小学生3件、中学生35件、高校生8件)
課 題	(英語教育・異国文化体験事業) 参加生徒からの評価は高いものの、高校生の参加人数が募集定員にまで達していない。 (英語検定受験料補助金) 中学生の受験者の減少により、補助金交付件数が減少している。
改善策	(英語教育・異国文化体験事業) 多様な方法により周知を図るとともに、リピート参加でも楽しめるように毎年レッスン内容を変えるようにする。 (英語検定受験料補助金) 補助金の活用により、検定料を負担することなく受験できることを引き続き周知するとともに、受験者を支援する放課後学習会を実施し受験者を増やす。
今後の目標	児童生徒の英語に対する興味・関心を高め、英語力の向上を図る。

自己評価(点数による評価)

視 点	評 価			備 考
① 妥当性	1 低い	2 高い	③ 不可欠	事業必要度
② 効率性	1 課題がある	② 予定通り	3 予定以上	費用対効果
③ 有効性	① 期待以下	2 期待通り	3 期待以上	目的達成度
事務事業の方向性	1 廃止		② 改善	3 維持継続

外部評価委員会の意見(点数による評価)

視 点	評 価			備 考
① 妥当性	1 低い	2 高い	③ 不可欠	事業必要度
② 効率性	1 課題がある	② 予定通り	3 予定以上	費用対効果
③ 有効性	1 期待以下	② 期待通り	3 期待以上	目的達成度
④ コメントによる評価 語学教育の充実と国際理解の推進に、英語教育・異国文化体験事業と英語検定受験料補助金は大変有効な事業であると思われる。さらなる参加者、受験者の増加を望む。そのためにはそれぞれの事業のPRがもっと必要だと思われる。				

町総合計画	第1節 健やかな人々とともに育むまちづくり	2. 教育環境	教育委員会 重点目標及び重点施策	
		2. 学校・家庭・地域の連携	重点目標	2. 学校・家庭・地域の連携
			重点施策	2-(1) コミュニティスクールの推進

事業の概要	事業名	家庭教育支援事業 (地域学校協働活動事業)	開始年度	H29	実施方法	直接	補助金等	県補助
	対象	西会津小・中学校の児童生徒及び教員、地域住民						
	目標	悩みを抱える保護者等のあらゆる相談に応じ、関係機関と連携を図りながら継続的な支援を行うとともに、講座の開催などの学習機会を提供し、家庭の教育力を高める。						
	事業内容	①相談室運営 週4日程度、西会津小学校内に設置する家庭教育相談室「こころのオアシス」において相談業務を行っている。相談員2名(紫藤アドバイザー・星支援員)が常駐し、保護者や児童生徒の相談に応じるほか、登校しぶりの児童生徒の居場所としての役割も担っている。 【R4利用者延べ人数】1,820人 (内訳)児童生徒 834人・46%、教員 429人・24%、保護者 208人・11%、その他 349人・19% ②保護者への情報提供 ・就学時健診時家庭教育講座(10月5日)・小中学校見学のコーディネート・「こころのオアシス通信」(広報紙)の発行・「こころのオアシス日記」(ブログ)の運用 ③親子参加型イベント ・親子フリーマーケット(11月5・6日 親子8組15人が出店) ④食育活動 ・小学生レシピコンテスト(6月募集 応募者25人)・食育ネットワーク会議(5月26日)・食育会議(8月24日)の開催(子どもたちの健康や生活習慣に対する課題・情報の共有、保護者への情報提供のあり方について検討) ⑤スキルアップ ・地域家庭教育推進会津ブロック会議「不登校支援の取組について」(6月16日)・福島県地域家庭教育推進協議会(6月3日、2月16日)・地域学校協働活動事業評価検証委員会(7月29日、1月16日) <取得している資格等> 不登校訪問支援カウンセラー、メンタル心理カウンセラー、上級心理カウンセラー ⑥情報発信等 (実践発表) ・国立教育政策研究所社会教育実践研修センター「社会教育主事講座」(5月31日 オンライン)・家庭教育全県研修(8月20日福島県庁)・秋田県家庭教育支援指導者研修(9月29日 秋田県生涯学習センター)・東北地区社会教育研究大会(10月13・14日 いわき市文化センター)・南会津町家庭教育支援者研修(11月26日 南会津町御蔵入交流館)・福島県教育委員会「機関情報 社会教育」(第342号) 活動紹介を掲載 <視察受入れ> ・福島県教育委員会教育長ほか(10月28日)・檜葉町教育委員会(11月18日)						
	予算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項	
	最終予算額(5年度は当初)	千円	6,019	2,394	2,515	2,790	令和2年度の予算・決算額は、地域学校協働活動事業全体額。	
決算額(A)	千円	5,625	2,355	2,431		令和3年度に委託事業(10/10委託)から補助事業(2/3補助)に移行。		
	決算額のうち一般財源	千円	45	786	813			

成果・評価	「こころのオアシス」での相談業務については、年々利用者が増加傾向にあり、児童生徒や保護者の認知度が上がってきている。また、来室した児童生徒の相談に応じたり、話し相手になったりすることで、児童生徒の居場所となり、不登校や登校しぶりを未然に防ぐことにもつながっている。教育・保育施設が隣接する小学校内に相談室が設置されていることも、利用者増加の要因となっており、保護者が子どもの送迎時に立ち寄りたり、児童生徒が気軽に来室したりしている。 このような相談業務のほか、家庭の教育力向上のための多岐にわたる活動が高く評価され、令和4年2月に文部科学大臣表彰を受賞することとなり、また、県内外から事例発表等の依頼が寄せられた。 【相談・面談者延べ人数】 H30:146人 R1:602人 R2:779人 R3:1,067人 R4:768人
課題	・複雑化・多様化している相談内容への対応 ・幼児期からの教育(家庭での教育)の充実 ・保護者のニーズに応じた活動内容の検討
改善策	・複雑な相談に対応するため、学校や子育て支援センター等の関係機関や学校教育アドバイザー・幼児教育保育アドバイザーとの連携を強化する。 ・文部科学省の委託事業として取り組む「幼保小の架け橋プログラム調査研究事業」のなかで、家庭での子どもとのより良いかわり方などを検討・周知し、家庭の教育力向上を図る。
今後の目標	保護者や児童生徒の相談等への適切な支援を行うとともに家庭の教育力向上のための情報提供を行う。

自己評価(点数による評価)

視点	評価			備考
① 妥当性	1 低い	2 高い	③ 不可欠	事業必要度
② 効率性	1 課題がある	② 予定通り	3 予定以上	費用対効果
③ 有効性	1 期待以下	② 期待通り	3 期待以上	目的達成度
事務事業の方向性	1 廃止		2 改善	③ 維持継続

外部評価委員会の意見(点数による評価)

視点	評価			備考
① 妥当性	1 低い	2 高い	③ 不可欠	事業必要度
② 効率性	1 課題がある	2 予定通り	③ 予定以上	費用対効果
③ 有効性	1 期待以下	2 期待通り	③ 期待以上	目的達成度
④ コメントによる評価 本事業はよくやられているので、特にコメントによる評価はない。引き続き事業を推進していただきたい。				

町総合計画	第1節 健全な人々とともに育むまちづくり	2. 教育環境	教育委員会 重点目標及び重点施策	
			重点目標	2. 学校・家庭・地域の連携
		2. 学校・家庭・地域の連携	重点施策	2-(4) 教育と福祉の連携

事業の概要	事業名	幼保小の架け橋プログラム事業		開始年度	R4	実施方法	直接	補助金等	国委託
	対象	認定こども園の園児及び保育士、小中学校の児童生徒及び教員、保護者							
	目標	認定こども園から小学校への円滑な接続を図るためのカリキュラムの作成・実践をする。							
	事業内容	令和4年度に文部科学省のモデル地区に採択(3年間)され、認定こども園から小学校への円滑な接続を図るためのカリキュラムの作成・実践に取り組んでいる。 〈令和4年度の取組〉 6月27日 第1回カリキュラム開発会議 9月22日 第2回カリキュラム開発会議 10月12日 保育士・教員合同研修会 1月13日 部会長打合せ会 2月15日 第3回カリキュラム開発会議 左記の会議等を経て、町特産のミネラル野菜とのかかわりを軸に据え、子どもの発達段階に応じた取り組みを盛り込んだカリキュラム案を作成した。							
	予 算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項		
	最終予算額(5年度は当初)	千円	-	-	869	730			
	決算額(A)	千円	-	-	571				
決算額のうち一般財源	千円	-	-	145					

成果・評価	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムについての協議を通して、保小中並びに家庭・地域の連携が強まるとともに、相互理解が深まった。 福島大学の原野教授の指導により、西会津町の特色を生かしたカリキュラム案の作成を進めることができた。 保育士・教員合同研修会を初めて開催することで、保育と学校教育のつながりについて、理解を深めることができた。 カリキュラム案を作成したことにより、保育計画と教育計画に交流活動等を入れ込むことができたため確実な実践が見込めるようになった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍により、年長児と小学校1年生の交流活動を十分に展開することができなかった。 交流活動等を行うための時間の確保 交流活動等の実施に向けた調整・連携
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 週に1時間、教員が保小連携(保育参観や交流活動の準備)のために使う時間を確保した。 保育計画(こども園)と教育計画(小学校)から、園児と小学生が連携できる活動を抜き出した年間計画を作成し、見直しをもって交流活動を展開する。 交流活動に向けた準備や調整を行うコーディネーターを配置する。
今後の目標	保小中の連携が継続的で実効性のあるカリキュラムを作成し、家庭・地域も含め、0歳児から中学3年生まで一貫した方向性で子どもたちを育成する。

自己評価(点数による評価)

視 点	評 価			備 考
① 妥当性	1 低い	2 高い	③ 不可欠	事業必要度
② 効率性	1 課題がある	② 予定通り	3 予定以上	費用対効果
③ 有効性	① 期待以下	2 期待通り	3 期待以上	目的達成度
事務事業の方向性	1 廃止		2 改善	③ 維持継続

外部評価委員会の意見(点数による評価)

視 点	評 価			備 考
① 妥当性	1 低い	② 高い	3 不可欠	事業必要度
② 効率性	1 課題がある	② 予定通り	3 予定以上	費用対効果
③ 有効性	1 期待以下	② 期待通り	3 期待以上	目的達成度
④ コメントによる評価 本事業の実施にあたっては、現場とよく打合せを実施するなどし、現場の保育士や教員の負担が増えることがないように実施していただきたい。				

町総合計画	第1節 健康やかな人々とともに育むまちづくり	3. 生涯学習	教育委員会 重点目標及び重点施策	
			重点目標	3. 生涯学習の推進
		1. 各種講座・教室の開催	重点施策	3-(1) 各種講座・教室の開催

事業の概要	事業名	学習の場の提供と生涯学習推進事業					開始年度		実施方法	直接	補助金等	町単
	対象	町民										
	目標	発表の場や生涯学習情報の提供を通じ、町民一人ひとりの学習意欲に応え、学んだ成果が地域で適切に評価され活かされる社会を目指す。併せて人材の育成や地域の振興につながることを目標とする。										
	事業内容	○学習機会と学習情報の提供(各種講座、教室の開催) 家庭教育、青少年教育、成人教育、高齢者教育、芸術・文化の各種講座・各教室を、これまでの実績や町民の要望を踏まえながら開催した。また、自治区や地域の要望にあわせ出前講座により学習の機会を提供した。										
	予 算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項					
	最終予算額(5年度は当初)	千円	71,578 (4,217)	68,478 (4,922)	61,828 (3,159)	63,360 (8,047)	()内の金額は、人件費を除く事業費					
	決算額(A)	千円	69,335 (3,369)	66,615 (4,105)	60,713 (2,312)							
	決算額のうち一般財源	千円	69,133 (3,168)	66,415 (3,904)	60,497 (2,096)							

成果・評価	<ul style="list-style-type: none"> 各種講座によっては、受講生の増減はあるものの、内容はおおむね好評である。 生涯学習発表会は、参加団体が実行委員会を組織して感染症予防対策を講じながら、発表を収録し、ケーブルテレビ放送で実施した。 成人講座を6つのコースに分けて参加者ニーズに合わせて開催した。 西会津の民話を後世へ残すため「西会津語りの会」の協力をいただきDVDに収録をした。 創作和太鼓は自主活動団体としての活動初年度であり、安定した運営の支援に向け、補助金の交付や普及事業を計画的に行った。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 講座の参加者は固定化しており、継続性を考えると新規受講者の拡大が必要である。 コロナ禍における講座の実施手段(募集人数制限等)を都度検討しながらの執行であり、一つ一つに時間を要する。 実行委員会方式で開催している生涯学習発表会「春の野草展」「芸術・文化部門」について、リーダー等が高齢化しており、後継者の確保が必要となっている。 若者の参加を増やす取り組みが必要である。 昨年好評であったタブレット講座を開催したが、他課事業と内容が重なったため連携を要する。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 講座等を積極的に周知し、参加しやすい環境整備を進め、生涯学習を推進する。 社会教育関係団体の組織強化のため、団体紹介を大々的に行い、新しい会員の勧誘を促す。 若者の参加につながる講座を開設する。 新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえた講座の進め方をする。 他課事業との調整を図りながら、事業を計画する。 生涯学習審議会での意見等も踏まえ進めていく。
今後の目標	<ul style="list-style-type: none"> 発表の機会を増やし、学ぶことのすばらしさを町民に周知して、魅力ある講座を構築する。 受講生が将来的に講座の講師になるよう、人材の育成にも力を入れていく。 新しい社会教育団体ができるよう、支援する。 若者が参加しやすい講座等の開設に取り組む。 タブレット講座に関わらずICTに関連した講座の開設など時代に合った講座の開設に取り組む。

自己評価(点数による評価)

視 点	評 価			備 考
① 妥当性	1 低い	2 高い	③ 不可欠	事業必要度
② 効率性	1 課題がある	② 予定通り	3 予定以上	費用対効果
③ 有効性	1 期待以下	② 期待通り	3 期待以上	目的達成度
事務事業の方向性	1 廃止		2 改善	③ 維持継続

外部評価委員会の意見(点数による評価)

視 点	評 価			備 考
① 妥当性	1 低い	② 高い	3 不可欠	事業必要度
② 効率性	1 課題がある	② 予定通り	3 予定以上	費用対効果
③ 有効性	1 期待以下	② 期待通り	3 期待以上	目的達成度

④ コメントによる評価

上記の評価とするが、本事業の推進にあたっては町民のニーズが重要である。若干の課題として、その町民のニーズを的確に捉えて計画に移すなど、迅速な対応が必要であると思われる。

町 総 合 計 画	第1節 健やかな人々とともに育むまちづくり	3. 生涯学習	教育委員会 重点目標及び重点施策	
			重点目標	3. 生涯学習の推進
		5. 図書館(室)利用の促進	重点施策	3-(5) 図書館(室)利用の促進

事 業 の 概 要	事業名	図書館事業	開始年度	H14	実施方法	直接	補助金等	町単
	対象	町民						
	目標	生涯学習のため、書籍やその他貴重な資料を利用いただくことを基本に、読書活動の普及など図書館としての役割を果たしていく。						
	事業内容	1. 館内活動 ①貸出・返却 ②資料の収集・保存 ③図書の登録・整備・展示・配架 ④相互貸借 ⑤レファレンス ⑥オリエンテーション ⑦広報活動<HP(蔵書検索可能)・NCT(新刊案内放送)> 2. 館外活動 ①おはなしの会、ブックスタート、おひざにだっこの会などを実施。 ②学校においてスタンプラリー、ベストリーダー表彰式の実施。ビブリオバトルの説明・実践。						
	予 算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項	
	最終予算額(5年度は当初)	千円	10,531 (5,002)	10,155 (4,401)	27,940 (19,500)	13,906 (4,938)	()内の金額は、人件費を除く事業費。	
決算額(A)	千円	10,083 (4,311)	9,928 (4,251)	27,710 (19,408)				
決算額のうち一般財源	千円	8,673 (3,631)	9,228 (3,551)	12,003 (3,702)				

成 果 ・ 評 価	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">一般</th> <th colspan="2">小学生</th> <th colspan="2">中学生</th> <th colspan="2">団体</th> <th colspan="2">合計</th> <th rowspan="2">来館者 人数</th> </tr> <tr> <th>貸出人数</th> <th>貸出冊数</th> <th>貸出人数</th> <th>貸出冊数</th> <th>貸出人数</th> <th>貸出冊数</th> <th>貸出人数</th> <th>貸出冊数</th> <th>貸出人数</th> <th>貸出冊数</th> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>2,299</td> <td>8,274</td> <td>2,686</td> <td>7,575</td> <td>633</td> <td>1,217</td> <td>120</td> <td>459</td> <td>5,738</td> <td>17,525</td> <td>7,893</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>1,958</td> <td>6,380</td> <td>2,198</td> <td>6,267</td> <td>541</td> <td>885</td> <td>141</td> <td>524</td> <td>4,838</td> <td>14,056</td> <td>7,156</td> </tr> </table>											年度	一般		小学生		中学生		団体		合計		来館者 人数	貸出人数	貸出冊数	貸出人数	貸出冊数	貸出人数	貸出冊数	貸出人数	貸出冊数	貸出人数	貸出冊数	令和3年度	2,299	8,274	2,686	7,575	633	1,217	120	459	5,738	17,525	7,893	令和4年度	1,958	6,380	2,198	6,267	541	885	141	524	4,838	14,056	7,156
	年度	一般		小学生		中学生		団体		合計			来館者 人数																																												
		貸出人数	貸出冊数	貸出人数	貸出冊数	貸出人数	貸出冊数	貸出人数	貸出冊数	貸出人数	貸出冊数																																														
	令和3年度	2,299	8,274	2,686	7,575	633	1,217	120	459	5,738	17,525	7,893																																													
令和4年度	1,958	6,380	2,198	6,267	541	885	141	524	4,838	14,056	7,156																																														
<p><館外活動参加者> ①おはなしの会 小学校～26回、こども園～15回 ②ビブリオバトル説明・実践・読み聞かせ(中学校)11回 ②ベストリーダー表彰 小1～70冊、小2～123冊、小3～98冊、小4～83冊、小5～51冊、小6～83冊 中学生 1位～82冊、2位～71冊、3位～67冊 ・町ケーブルテレビでお勧めする本の紹介を児童生徒が行った。 ・読書通帳を作り読書の推進を図った。(令和3年導入時287冊、令和4年度60冊発行) ・館内のエアコンを修繕し、環境が改善できた。</p>																																																									
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児に本を読み聞かせする家庭の割合が少ない。 ・発育段階に応じた読書が望まれる。 ・県平均に比べ、小中学生の読書量が少ない。(令和4年11月調べ) ・読解力の向上が望まれる。 ・一般の利用者が固定されている。(新規利用者の開拓) 																																																								
改 善 策	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢ごとにあった本を紹介するチラシを配布する。 ・学校でブックトーク等本への興味を広げる活動をする。 ・小学校の先生と連携して、定期的な図書館の利用を促す。 ・中学校においてビブリオバトルに取り組み更なる読書活動の推進を図る。 ・町広報紙での「図書館だより」、町ケーブルテレビで毎週放映している「新刊案内」など、読書の啓発・広報を推進する。 ・誕生から1才半健診までに、ブックスタートの絵本を2冊プレゼントする。 ・乳幼児健診時に、親子への声かけやチラシを配布する。 ・町民向けに本の配送サービスやサロンでの本の貸出サービスを行い、新規利用者の増加を図る。 ・読書通帳の配布により、読書の記録によって図書館利用のきっかけをつくる。 ・教員に対する研修を実施し、小中学生の読解力向上を図る。 																																																								
今 後 の 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・生まれてから中学校を卒業するまでの間、より多くの図書とふれあう機会を積極的に設ける。 ・県立図書館及び他市町村等の関係機関との連携を推進する。特に、県立図書館で行っている相互貸借や学校図書館サポートセットの活用を呼びかけ更なる利用を図る。 ・効果的なイベント等を開催し来館するきっかけづくりと、読書への興味を広げる。 ・読書通帳の活用を積極的に進める。 																																																								

自己評価(点数による評価)

視 点	評 価			備 考
① 妥当性	1 低い	2 高い	③ 不可欠	事業必要度
② 効率性	1 課題がある	② 予定通り	3 予定以上	費用対効果
③ 有効性	1 期待以下	② 期待通り	3 期待以上	目的達成度
事務事業の方向性	1 廃止		2 改善	③ 維持継続

外部評価委員会の意見(点数による評価)

視 点	評 価			備 考
① 妥当性	1 低い	2 高い	③ 不可欠	事業必要度
② 効率性	1 課題がある	② 予定通り	3 予定以上	費用対効果
③ 有効性	1 期待以下	② 期待通り	3 期待以上	目的達成度

④ コメントによる評価
 図書館は町民図書館でもあり、町の知的財産(町民が発行した刊行物等)を所蔵する場所としての活用も必要であると思われる。

町総合計画	第1節 健康やかな人をともに育むまちづくり	4. スポーツ	教育委員会 重点目標及び重点施策	
			重点目標	4. スポーツ活動の推進
		2. スポーツ団体等支援 3. 競技力向上のための支援	重点施策	4-(2) スポーツ団体等支援 4-(3) 競技力向上のための支援

事業の概要	事業名	スポーツの普及・スポーツ団体育成と競技力向上事業		開始年度		実施方法	直接	補助金等	町単
	対象	町民							
	目標	健康づくりのため町民が日常的にスポーツに触れ合う時間を増やしていくこと。また、競技力の向上を図り、市町村対抗競技などでの成績向上を目指す。							
	事業内容	①スポーツ行事の開催～各地区体育行事、町民グラウンドゴルフ大会、町民カローリング大会等 ②気軽に行えるニュースポーツの普及 ③体育協会の育成 ④総合型地域スポーツクラブの育成、スポーツ少年団の支援 ⑤ふくしま駅伝大会・市町村対抗野球大会・ソフトボール大会への支援							
	予算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項		
最終予算額(5年度は当初)	千円	40,822 (37,185)	12,188 (8,130)	13,327 (9,448)	15,738 (8,703)	()内の金額は、人件費を除く事業費			
決算額(A)	千円	39,318 (35,731)	10,983 (6,968)	11,581 (7,523)					
決算額のうち一般財源	千円	39,318 (35,731)	10,983 (6,968)	11,581 (7,523)					

成果・評価	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響で前半は各地区スポーツ行事のほとんどが開催できなかったが、後半は対策を取りながら徐々に開催することができ、町民の健康増進と親睦を図ることができた。スポーツ少年団については、学校での感染状況を見ながら活動ができた。 「ふくしま駅伝」は、52チーム中37位であった。(H28、R元に敢闘賞を受賞。キッズランニングクラブや中学校駅伝の練習効果、走力の向上がみられる。H30→38/53、R元→30/53、R2→29/50、R3→32/50、R4→37/52) 軟式野球は初のベスト8進出、ソフトボールは初の1勝が不戦勝ではあったものの、2回戦は最終回まで3点差のリードを保つなど、技術の向上が見られた。 児童生徒の蓄積したデータを基にケガをしない身体づくりを目的とした体組成データ化事業を継続して実施した。(会津大学会津短期大学部との連携を図った。) 前年度より継続してこども園や小学校低学年への運動教室を開催できた。また、公民館事業においてもニュースポーツの普及を図り「スポーツコース」を設けて実施できた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> スポーツによる町民の健康増進には、一人一スポーツのさらなる推進(各種講座での取組みなど)が必要である。 肥満児の増加が課題でもあり、小さいうちからのスポーツに親しむ機会が必要である。 市町村対抗競技においては、成績向上対策を第一の目標にしてきた。しかし、少子高齢化・人口減少から競技人口が少なくなり、野球・ソフトは次世代の競技者が少なく、駅伝も選手を集めるのが困難な状況になっている。 総合型地域スポーツクラブは、安定した組織運営ができるよう団体と連携するとともに運営等の課題の洗い出しとその対策が必要である。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 総合型地域スポーツクラブの組織運営の基盤づくりに向けた支援を行う。 市町村対抗競技は、戦績を重視しつつ次世代の育成を図る。 肥満児対策として小学生対象の公民館スポーツ講座やスポーツ少年団の加入促進を図る。
今後の目標	<ul style="list-style-type: none"> 一人一スポーツの普及を図るため、総合型地域スポーツクラブの自立と強化に向けた支援を行うとともに、ニュースポーツの普及を促進する。 市町村対抗競技については、好成績を残せるよう支援するとともに、将来に渡り継続的に参加する。 各種機関の協力を得ながら低年齢層からスポーツに親しめる環境づくりをする。

自己評価(点数による評価)

視点	評価			備考
① 妥当性	1 低い	2 高い	③ 不可欠	事業必要度
② 効率性	1 課題がある	② 予定通り	3 予定以上	費用対効果
③ 有効性	1 期待以下	② 期待通り	3 期待以上	目的達成度
事務事業の方向性	1 廃止		2 改善	③ 維持継続

外部評価委員会の意見(点数による評価)

視点	評価			備考
① 妥当性	1 低い	2 高い	③ 不可欠	事業必要度
② 効率性	1 課題がある	② 予定通り	3 予定以上	費用対効果
③ 有効性	1 期待以下	② 期待通り	3 期待以上	目的達成度
④ コメントによる評価	近年、高齢化や過疎化、新型コロナウイルス感染症等により、各地区におけるスポーツ行事の開催・運営に支障をきたしているようであるが、町民の健康づくりのため、各種スポーツ行事や大会等継続の努力を期待したい。			

令和5年度 西会津町教育委員会事務事業（令和4年度分）の点検・評価・評価 総括表

番号	事務・事業名	自己評価			事業の方向性	外部評価委員評価			備考
		妥当性	効率性	有効性		妥当性	効率性	有効性	
1	英語教育・異国文化体験事業／英語検定受験料補助金	3	2	1	改善	3	2	2	
2	家庭教育支援事業（地域学校協働活動事業）	3	2	2	維持継続	3	3	3	
3	幼保小の架け橋プログラム事業	3	2	1	維持継続	2	2	2	
4	学習の場の提供と生涯学習推進事業	3	2	2	維持継続	2	2	2	
5	図書館事業	3	2	2	維持継続	3	2	2	
6	スポーツの普及・スポーツ団体育成と競技力向上事業	3	2	2	維持継続	3	2	2	

視点 ① 妥当性（事業の妥当性） 1（低い） 2（高い） 3（不可欠）
 ② 効率性（費用対効果） 1（課題がある） 2（予定どおり） 3（予定以上）
 ③ 有効性（目的達成度） 1（期待以下） 2（期待どおり） 3（期待以上）

外部評価委員名簿

氏名	自治区名	備考
長澤隆	芝草	
津川由紀	西原	
嶋田純子	下野尻	
伊藤徳伸	呼賀	
矢部征男	松峯	(委員長)